ぶらりらいぶらりぃ

～図書室にはこんな本があります～

No. 63

★ **利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料を紹介します。**
（書名の後の( )の数字は請求記号です。）

問　「あたらしい憲法のはなし」について知りたい。

答　「**あたらしい憲法のはなし**」で検索してみます。

全資料 → **あたらしい憲法のはなし**　（６件該当）

＊ 復刻されているもの
『読む日本国憲法』（開架児童 323/Ke51）
『あたらしい憲法のはなし』（375.31/Mo31）

＊ あたらしい憲法のはなしについて
『戦後教育の総合評価』（372.1/Se64）
『暮しの手帖 第２世紀 第73号ー第75号』（雑誌 051/Ku55/2-73）

ひらがなと漢字の組み合わせでヒットする資料が違ってきます。
１．あたらしいけんぽう → １件
２．あたらしい憲法　　→ ７件
３．新しいけんぽう　　→ ０件
４．新しい憲法　　→ ７件
５．条件いずれかのことばを含むを選択し１，２，３，４を入力 → 14件

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

・・・もう一冊！！！・・・６１

筆者のように、古本ばかり買う人間にとって、本の定価などはあまり意味がないのですが、最近の新刊書の値段を見ていると、本は安いなー、と思います。古本の値段は、本そのものの価値ですから、定価１円の本が１０万円でも驚くことはありません。しかし、新刊書は、製作経費から自動的におおよその値段が決まってしまいます。一般的に言えば、出版社は定価の約７０％弱で取り次ぎに納品し、その７０％弱の更に６０％前後で本を作ることになります。仮に１０００円の本があれば、その本は４００円前後で出来ていると言うことです。逆に１冊１０００円かかった本は、まあ、定価は２８００円前後という事になります。この一冊単価も、製作にかかった経費や発行数で大きく変わりますから、発行数の少ない本はずいぶん高くなるわけです。広告の多い雑誌などは、印刷原価よりも安い定価という場合もありますが、普通の小説くらいのボリュームの本が１万円を超えることもあります。昭和３０年代ころまでは、よく１ページ１円などと言って、２００ページくらいの本は２００円＋アルファーなどといったこともありました。同じ定価でも、昔の岩波文庫などのように ★（ホシマーク）の数で決めていたものもあります。筆者などは★一つ５０円という記憶が定着しています。確かこれが一気に値上がりすることになった時に、段ボール１箱くらいまとめ買いした事がありました。考えれば、そんな必要はなかったのですが、これも本の価格感覚のせいで、ずいぶん高くなるような気がしたからです。

初めに書いたように、本の値段は、発行数やいろいろな要素で基本的な製作価格が決まり、これに基づいて定価が設定されるのですから、見た目の定価で高いか安いかはわからないのです。筆者などは本を見ながら、作った人の苦労を思うと、こんな定価で良いのかなー。と思うことがある反面、高いなー。と思う本もあります。しかし、本は押し売りされるものではありません。高いと思えば買わなければよいのですから、買った本に関して高いと思ったことはありません。買うか買うまいか・・書店の本棚の前で悩むのも楽しみの一つと思えば、本の楽しみがまた増えるのではないでしょうか。（午睡）

－図書室から－

あっという間に今年も終わろうとしています。来年は戦後６０年。戦後生まれも還暦を迎えます。語り伝える大切さを実感する年になるかもしれませんね。

＊検索端末に触れてみましょう。

閲覧室内には、一般図書を中心に児童書、参考図書などを置いていますが、これ以外にたくさんの資料が書庫にあります。検索端末に触れていろいろな資料を見つけてみましょう。

ぶらりらいぶらりぃ　～図書室にはこんな本があります～　Ｎｏ．６３
２００４年１２月１４日　発行
編集・発行　　昭和館　図書室
〒102-0074　東京都千代田区九段南１－６－１